

第36回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2016年2月26日(金) 16:30より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)402号室

演題

“戦時期の体育・スポーツとジェンダー
—戦時人口政策の視点から—”

鈴木楓太 先生

(早稲田大学スポーツ科学学術院 助手)

戦時期はスポーツの「暗黒時代」であったとされてきたが、それは兵士としての訓練が最優先された青年男性の状況に立脚した時代像であり、女性や一般国民にはそれぞれ別の方針で、スポーツを含む様々な運動種目が奨励された。学徒を対象とした重点主義や、明治神宮大会、住民参加型の運動会、男女の体力章検定、隣組や職場で行う恒常的な体育など...本報告では、こうした多様な実態を明らかにしたうえで、戦時期の体育・スポーツの全体像をとらえる新たな説明を試みる。それは、厚生省を中心とした戦時期の体育・スポーツ政策は、「人的資源」のジェンダー化された動員を企図した戦時人口政策を基盤として展開された、というものである。本報告では、1943年に確立された「青年男性、青年女性、産業人、一般国民」という4つの区分が確立される過程と、これ等の区分とスポーツ等の運動種目とが、なぜ、どのように結び付けられたのかを明らかにする。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・霜島広樹
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: h-simozima@aoni.waseda.jp